

## 第5章 環境の保全及び創造の考え方 5.2 交通計画

【工事期間中だけでなく事業開催時、開催後までの交通環境についての調査、評価を求めます】

・会場地までの交通アクセスについては、建設中だけでなく事業開催中も多くの観光客が平日、土日祝日を問わず利用することになります。また、開発時から開催、開催後に至って交通利用がどのように変化・推移するかを見極めた総合的な環境評価を求めます。

建設工事の実施にあたっては、工事関連車両の走行ルートは歩道を有する幹線道路利用、高速道路利用を優先し、一般道路の走行は可能な限り短くすることにより交通渋滞の防止や歩行者等の交通安全確保に努める。

作業員の通勤手段に関しては公共交通の利用を奨励し、自動車使用の抑制に努めることにより、周辺環境に配慮する。

第2章 地域の概況 2.1.3 交通で示されている事業計画地周辺道路は、大阪市内の道路網と直結しており、市内並びに府下の交通アクセスへの影響度によって、大阪の経済活動にどのように影響が及ぶのかは検討する必要があります。

特に道路網では、現在物流拠点に乗り入れるコンテナ輸送車両で、週末・週初めの渋滞が懸念されている中、工事期間中及び事業開催中にどの程度の渋滞が発生し、「物流経済」に影響を与えるかを調査、評価し、必要に応じた対策が提示されるべきです。

また、鉄道網についても同様で、開発時及び開催時における混雑は、夢洲へのアクセス以上に深刻な影響を及ぼすと考えられます。

JR 桜島線が乗り入れる大阪環状線や大阪環状線のターミナルともなる大阪駅、京橋駅、鶴橋駅、天王寺駅、新今宮駅などの乗降客が集中する駅や乗り換えルートは、通勤、通学客に大きく影響を及ぼすと考えられます。

地下鉄メトロ中央線においても、四つ橋線、御堂筋線、堺筋線、谷町線と利用客の多い路線への影響度は、十分に調査、検証する対象と考えます。

他方、持続可能性のある開発という点から、事業終了後に夢洲へのアクセス網の利用度がどの程度になるのかを検証することも重要と考えます。